

市民講演会「生物物理学を語る——研究最前線の若い女性研究者たち」

2007年12月23日（日） パシフィコ横浜、15:00～17:00 J会場

オーガナイザー：美宅成樹（日本生物物理学会会長）

- 1) 「細胞骨格を担うタンパク、アクチンは、リサイクルされる」藤原郁子（米国NIH/NHLBI）
- 2) 「立体構造の観点からタンパク質をいじったら、シナプスが少し見えてきた！」野中美応（東京大学医学系研究科）
- 3) 「原子レベルで見る『かたち』から探るタンパク質の働く仕組み」山下敦子（理化学研究所播磨研究所）
- 4) 「多様な酵素の形と働き」長野希美（産業技術総合研究所）

この講演会では、若い女性研究者に生物物理学の最前線を大いに語ってもらうことにしました。もちろん市民講演会ですから、分野の基礎から分かりやすくお話していただきます。これまでも、そして現在も生物物理学会では、多くの女性研究者が活躍しています。しかし、生物物理学会年会の市民講演会で、女性研究者の方にお話いただいたことはあまりありませんでした。そこで、生物物理学会の女性研究者の元気さと聡明さを一般の人たちに向けてもアピールしたいと、この講演会を企画しました。もちろん、生物物理学会会員の方にも聞いていただきたく思います。男女共同参画が大事だと言われていることに便乗しているという批判は覚悟していますが、便乗ついでに言わせていただければ、このシンポジウムに多くの女子学生、女子高校生たちが参加し、10年後、20年後の生物物理学会会員の男女比が半々になると良いなと思います。